

科目名	開講時期	必修・選択	科目区分	単位(時間)	科目責任者
基礎看護学方法論Ⅰ-3	1年次 前期	必修	講義	1単位(30時間)	星 翔子 ※
授 業 概 要					
対象がよりよく生きることを支えるために、看護独自の機能である日常生活を整える技術の基本を科学的に学習する。ここでは、援助の原理原則を学び、様々な年齢や健康状態の人に日常生活援助を実施する基礎を学ぶ。					
到 達 目 標					
1. 日常生活援助技術の科学的根拠や原理原則を述べる。 2. 対象に応じた援助の必要性と方法を述べる。 3. 安全・安楽・自立・個性に配慮して日常生活援助を実施する。 4. 実施した援助を評価し、自己の課題を述べる。					
回	学 習 内 容				担当教員
1-8	1. 身体の位置を動かし適切な姿勢を保持する 1) 活動・運動の意義 2) 姿勢・体位・活動のニーズが充足された状態と影響する要因 3) 姿勢・体位・活動のニーズの充足状況の判断 4) 運動機能の維持・回復のための援助 床上運動・活動の援助 5) 運動機能の低下した人の援助 体位変換と安楽な姿勢 車椅子・ストレッチャーでの移動 歩行時の援助 6) 車椅子・ストレッチャーでの移動の実際 計画 実施 評価				星 翔子 ※ 井口久仁子 ※
9-15	2. 睡眠し休息をとる 1) 人間にとっての休息・睡眠の意義 2) 休息・睡眠のニーズが充足された状態と影響する要因 3) 休息・睡眠のニーズの充足状況の判断 4) 安楽な休息・睡眠を促す援助方法 5) 褥法 6) 睡眠の援助の実際(足浴) 計画 実施 評価				
学 習 方 法					
解剖生理学をはじめ看護の概念など、既習の知識を再確認しながら演習する。自分自身が体験することで基本となる知識を確認し、原理原則に沿った基本技術を習得していくので、自己訓練が必要になる。個人又はグループで演習をしながら、手順だけでなく必要な根拠、アセスメント力を高めるように努力が重要である。					
評 価 方 法					
〔評価方法〕 科目修了試験、小テスト、レポート					
先 修 科 目					
なし					
教 科 書、参 考 書					
〔教科書〕 新体系 看護学全書 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ 編集 深井喜代子 メディカルフレンド社 写真でわかる 実習で使える看護技術 アドバンス 編著 吉田みつ子 本庄恵子 インターメディカ 学生のためのヒヤリ・ハットに学ぶ看護技術 監修 川島みどり 医学書院					